

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について
(予報第2号(6月))

標記について、次のとおり発表します。

《6月の病虫害発生予報》

＜作物＞

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	<u>やや多い</u>	多い
水 稲			いもち病		
			縞葉枯病		
			(ヒメビウンカ)		
	スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)発生に注意				

＜果樹類＞

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう			べと病		
			灰色かび病		
			チャノキイロアザミウマ		
					クワゴマダラヒトリ
もも			せん孔細菌病		
			シンクイムシ類		
バラ科 果樹	クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
みかん			黒点病		
			カイガラムシ類		
			ミカンハダニ		
果樹類 全般			果樹カメムシ類		

＜野菜類＞

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす		すすかび病		灰色かび病	
		うどんこ病			
		ミナミキイロアザミウマ			

＜その他＞

品目程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・ 花き類			シロイチモジヨトウ		
			ハスモンヨトウ		
			コナガ		
			アブラムシ類		

《今月のトピックス》

■今後の発生に注意が必要な病害虫

【水稲】	スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）
【もも】	せん孔細菌病
【ぶどう】	べと病、灰色かび病
【バラ科果樹】	クビアカツヤカミキリ
【果樹類全般】	果樹カメムシ類
【なす】	灰色かび病、うどんこ病
【野菜類・花き類】	シロイチモジヨトウ、コナガ、アブラムシ類

《(参考)6月の気象予報》(大阪管区气象台5月28日発表)

気温	低い（10％）	平年並（20％）	高い（70％）
降水量	少ない（20％）	平年並（40％）	多い（40％）
日照時間	少ない（40％）	平年並（40％）	多い（20％）

（詳細は、一覧表参照）

A 作物

1 水稲

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
いもち病	並	【予報の根拠】 ・前年の巡回調査では、平年同様発生は少なかった。 ・6月の降雨量はやや多い、気温は高いと予想されている。 【注意すべき事項】 ・田植後の余り苗を水田に放置しない。 ・発生が予想される場合は、田植前に箱施用剤を処理する。 【メモ】 ・低温、日照不足の時に発生しやすい。 ・近年、他府県において QoI 剤（アミスター、嵐、オリブライト、イモチエース等）耐性菌の発生が報告されている。
縞葉枯病 （ヒメトビウンカ）	並	【予報の根拠】 ・前年の巡回調査では、平年同様発生は少なかった。 【防除上考慮すべき事項】 ・田植前までに水田、畦畔の除草を行う。 ・ヒメトビウンカの防除薬剤を施用する。 ・密植を避けて通風を良好にするとともに、窒素肥料の過用を避ける。 【メモ】 ・本病はヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病である。
スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）	発生に注意	【予報の根拠】 ・近年、生息地域が拡大している。 【防除上考慮すべき事項】 ・水深4cm以下の浅水管理を行う。 ・桃色の卵塊は水中へ掻き落とし、成貝は拾い取り、処分する。 【メモ】 ・田植直後から約20日後までの食害による被害が大きい。

B 果樹

1 ぶどう

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
べと病	並～ やや多い	[予報の根拠] ・ 6 月の降雨量はやや多い、気温は高いと予想されている。 ・ 巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 [注意すべき事項] ・ 発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。 [メモ] ・ 5 月～10 月に降雨が続き、気温が低めに経過すると発生が多い。
灰色かび病	並～ やや多い	[予報の根拠] ・ 巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 ・ 6 月の気温は高く、降水量はやや多いと予想されている。 [注意すべき事項] ・ ハウス栽培では換気やマルチを行い、湿度を下げる。 ・ 落花直後の花かすを取り除く。 [メモ] ・ 多湿条件で発生が多い。
チャノキイロ アザミウマ	並	[予報の根拠] ・ 巡回調査では、発生は平年並であった。 [注意すべき事項] ・ 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 [メモ] ・ 大粒系品種では果実の傷や果軸の褐変が起こりやすい

2 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	やや多い	[予報の根拠] ・ 6 月の降水量はやや多いと予想されている。 [注意すべき事項] ・ 伝染源となる葉、枝、果実を除去し、適切に処分する。 ・ 薬剤防除は多発してからでは効果が劣るため、早めの予防散布を心がける。降雨前が効果的。 ・ 降雨前に袋かけを行い、雨滴による感染を防止する。 ・ 風当たりの強い園地では、防風ネット等を設置する。
シンクイムシ 類	並	[予報の根拠] ・ 5 月のフェロモントラップ誘殺数は、平年並であった。 [注意すべき事項] ・ 被害果や被害枝は、ほ場外に持ち出し処分する。

3 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	並	[予報の根拠] ・昨年度の巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・6月の降雨量は平年よりやや多いと予想されている。 [注意すべき事項] ・伝染源となる枯枝は除去し、適切に除去する。
カイガラムシ類	並	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は平年同様少なかった。 [注意すべき事項] ・発生の多い園地では、防除を徹底する。
ミカンハダニ	並	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は平年同様少なかった。 [注意すべき事項] ・発生の多い園地では、防除を徹底する。

4 果樹全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
果樹カメムシ類	やや多い	[予報の根拠] ・5月のフェロモントラップによる誘殺虫数は、平年よりやや多かった。 [注意すべき事項] ・園地により飛来量は大きく異なる可能性があるので、園内を見回り発生及び被害状況を確認する。発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。

C 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
すすかび病	やや少ない～並	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・6月の降水量はやや多く、6月の日照時間は平年よりやや少ないと予想されている。 [注意すべき事項] ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。(QoI 剤(アミスター、ストロビー、シグナム)、SDHI 剤(アフエット、カンタス、シグナム)は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。) [メモ] ・主にハウス栽培で発生する。ハウス内温度が23～28℃位で、多湿条件下で発生が多い。曇雨天が続く、換気が不十分だと発生しやすい。
灰色かび病	やや多い	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は平年並みであった。 ・防除協力員より一部地域で平年より発生が多いと報告がある。 ・6月の降水量はやや多く、日照時間は平年よりやや少ないと予想されている。

		【注意すべき事項】 ・果実に付着した花卉からの感染が多いので花卉の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 【メモ】 ・灰色かび病は20℃程度、多湿、日照不足で発生が多くなる。 ・QoI 剤（シグナム）、SDHI 剤（アフェット、カンタス、シグナム）は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
うどんこ病	やや少ない	【予報の根拠】 ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・6月の気温は高く、日照時間はやや少ないと予想されている。 【注意すべき事項】 ・密植を避け、過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 【メモ】 ・うどんこ病は日照不足、高温乾燥条件下で多発する。 ・QoI 剤（アミスター、ストロビー）、SDHI 剤（アフェット）は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
ミナミキイロアザミウマ	やや少ない～並	【予報の根拠】 ・巡回調査では、発生は平年よりやや少ない。 ・6月の気温は高いと予想されている。 【注意すべき事項】 ・多くの薬剤で感受性が低下しており、発生が増えると防除が困難である。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。 ・ハウス栽培では、開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。

D 野菜類・花き類

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
シロイチモジヨトウ	並～やや多い	【予報の根拠】 ・フェロモントラップへの誘殺虫数は平年並～やや多かった。 【注意すべき事項】 ・発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
ハスモンヨトウ	並	【予報の根拠】 ・フェロモントラップへの誘殺虫数は平年並であった。 【注意すべき事項】 ・発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

コナガ	並～やや多い	[予報の根拠] ・フェロモントラップの誘殺虫数は平年並～やや多かった。 ・予察灯での誘殺虫数は、平年並～やや多かった。 [注意すべき事項] ・発生初期に防除を行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用は避ける。
アブラムシ類	並～やや多い	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・黄色水盤による誘殺虫数は平年並～やや多かった。 [注意すべき事項] ・施設栽培では、開口部を0.8mm以下のネットで被覆し、成虫の飛来を防止する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 [メモ] ・アブラムシ類が媒介するウイルス病には、キュウリモザイクウイルス（CMV）などがある。 ・ウイルス病が発病した株は、まん延防止のため、抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病虫害防除グループ・ホームページ

（平成23年4月1日より大阪府病虫害防除所から組織名変更）

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

防除指針を掲載しています。

●病虫害発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病虫害防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mailservicemusikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約15件の病虫害情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所

企画部 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

●Web版大阪府園芸植物病虫害図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病虫害」

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

（大阪府植物防疫協会）